

平成22年度病害虫発生予察注意報第5号

平成22年9月13日
愛 知 県

作物名：水稲

病害虫名：トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域（普通期栽培）
- 2 発生時期 9月上旬から10月上旬まで
- 3 発生程度 多い
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 長久手町の予察灯で8月第3半旬に3頭、第4半旬に1頭、9月第1半旬に2頭成虫が誘殺され、予察灯への飛来は平年に比べてやや早い状況である。
 - (2) 8月下旬の本田調査で南知多町、吉良町のほ場で本種の生息を確認し、発生量は平年に比べてやや多い状況である。また、新城市では本田で繁殖能力の高い短翅型成虫を確認した。
 - (3) 9月7日に新城市の3ほ場で本種による坪枯れの発生を確認した。
 - (4) 9月3日発表の1か月予報では、気温が高い確率が70%と予想されており、今後も本種の発生に好適な条件が続くと予測される。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 坪枯れが確認されたほ場の周辺では、トビイロウンカの発生している可能性が高いので、早急に防除する。
 - (2) トビイロウンカが株当たり5頭以上寄生している場合は、登録薬剤の中から安全使用基準を厳守の上、直ちに防除する。
 - (3) 粉剤や液剤を使用して防除する場合は、株元に薬剤が十分かかるように散布する。
 - (4) 粒剤を使用する場合は水田を湛水する。
 - (5) 収穫期近くになって坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く刈り取るように心がける。
- 6 連絡先
愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ
電話：0561-62-0085（内線471）

トビイロウンカ

1 形態



トビイロウンカ成虫
 体長は4～5mm、油ぎった褐色をしており、長翅型（左）、短翅型（右）があり、短翅型の方が産卵数が多く増殖能力が高い。

トビイロウンカ幼虫
 黄褐色から黒褐色をしている。

2 生態

本種は日本では越冬できず、毎年梅雨時にジェット気流に乗って中国大陸から移動してくる。飛来する時期が早く、飛来数が多いほどその後の発生量が多くなる。気温の高い時期は1ヶ月もかからず、世代を繰り返す。

3 被害

本種成虫、幼虫は稲を吸汁加害する。寄生虫数が増加すると、稲が急激に萎凋して枯れるため、坪枯れと呼ばれる被害となり、収量や品質を低下させる。



トビイロウンカによる坪枯れ（平成21年10月）